

1 社会情勢の変化と「市立長野」の取組

現代の急激な変化に対し、従来の「画一的な教育」では対応できない課題が生じている

社会の変化	教育への影響・課題	市立長野の取組
AIの台頭・VUCA時代	正解を再現する力より「問いを立てる力」や「非認知能力」が求められる	探究スペシャリストを中心とした「正解のない問い」へ挑む文化の醸成
少子化の加速	集団の小規模化により多様な価値観に触れる機会が減少	学力・スポーツ・探究のトップ層が交わる「高密度の多様性」の維持
労働構造の変化	専門性だけでなく、異なる分野をつなぐ「協働力」が求められる	異なる努力の形をリスペクトし合う「共鳴のサイクル」による人間形成
N-E.X.T.ハイスクール構想（公立高校の魅力化）	「地域と連携した学び」や「個に応じた多様な進路」が求められる	「大学合格実績」という単一の物差しだけでない「市立長野でしか得られない特別な経験（競技・探究・人脈）」

※VUCA（ブーカ）：予測不能で、先の見通しが立たない社会やビジネス環境

※N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想：文部科学省が2026年2月に公表した、2040年に向けた高校教育改革のグランドデザイン（基本方針）

2 市立長野の基本構造
多様な「個」が集まるプラットフォーム

層（カテゴリー）	選抜方法（規模）	特徴・入学の動機
アカデミック層	中学入試（70名）	高い学習意欲と早期からの知的好奇心
アスリート層	高校前期選抜（50名）	サッカー、スケート、陸上等、全国レベルを目指す競技力
イノベーター層		探究活動での実績と課題解決への強い意欲
総合力層	高校後期選抜（40名）	高い基礎学力と市立長野の多様な環境での成長を望む生徒

市立長野は、選抜方法が異なる4つの層（1学年160名）が融合する、長野市内でも類を見ない「多様性の縮図」